

# 前進する野党共闘

## 深まる「市民と野党の共同」

**滋賀の野党統一候補の斎藤アレックス氏と徳永久志氏が比例で当選**

発展した野党共闘で政権交代に挑んだ10月31日投開票の総選挙。市民と野党の共闘は、新たな政治状況を切り開きました。滋賀選挙区では、1区から4区まで野党統一候補を擁立することができます。結果小選挙区では、議席は獲得できませんでしたが、比例復活で2人の候補を国会に送ることができました。

同盟県本部は、4人の野党統一候補に同盟中央作成の「為書き檄文」と「要効書」(当選後同盟の請願採択のため紹介議員になつてもらう)を届けました。各地で国賠同盟の会員の皆さんのが野党統一候補の勝利のために宣伝や支持を広げる活動にご尽力いただきました。来年は、参議院選挙と知事選挙が予定されています。皆さんの更なるご支援を心から訴えます。



滋賀県版No. 334

2021・11・15

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
〒113-0034  
東京都文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター・  
全労連会館

発行  
滋賀県本部  
〒520-0803  
大津市竜が丘11-22-316  
☎077-521-0884  
・袖口 延

### 時評

#### 日本維新の会の躍進について

県本部事務局長 柚口 延

今回の衆院選挙の結果で特筆すべきことは、日本維新の会(以下維新)の大躍進(11議席から41議席)です。維新の躍進については、吉村・松井・橋下らの在阪メディアへの露出効果や大阪の自民党の不人気などが理由にあげられています。

維新躍進を考えるうえで、参考になる論文があります。

『維新政治の本質—その支持層についての一考察』富田宏治関西学院大 教授(月刊「住民と自治」2018年11号)です。

富田氏はまず「維新政治の本質とは、大阪に広がる貧困と格差を『分断』へと転化させ、中堅サラリーマン層の弱者への憎悪の感情を組織化し、その『分断』を固定したものだった。」と定義し、維新支持層とは「税や社会保険など公的負担への負

担感を重く感じつつ、それに見合う公的サービスの恩恵を受けられない不満と自分たちとは逆に公的負担を負うことなくもっぱら福祉、医療などの公的サービスの恩恵を受けている『貧乏人』や『年寄り』や『病人』への激しい怨嗟や憎悪に身を焦がす『勝ち組』・中堅サラリーマン層」と述べています。

「勝ち組」中堅サラリーマン層は、企業内外に展開する激しい生き残り競争にさらされ、一つ下手を打てば「負け組」の生活に転落しかねない不安さを抱えている。この不安定さと「負け組」へのさげすみが重なつたとき、社会的弱者への同情や共感ではなく、憎悪や敵意が現れます。この感情を煽つてゐるのが维新であると富田氏は述べてい

# 映画『わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯』の制作・上映運動への「協力を呼びかけます

合 滋賀民主医療機関連合会、日本国民救援会滋賀県本部、新興吟詠会・葭笛短歌会、新日本婦人の会

島田耕 共同代表

## 制作・上映運動への「協力を呼びかけます

新型コロナ感染がなお続くな  
か、一〇月一〇日、劇映画「わ  
が青春つきるとも—伊藤千代子  
の生涯」の撮影・制作が開始さ  
れました。

「うさしつつ

たぶれしをめよ

新しき光に中におきて思はむ

歌人・土屋文明は一九三五年、こう詠いました。  
ジエンダー平等の声が大きく広がっているいま、一〇〇年前に「女の人人が目覚める時、そして自己の自己に対する催眠術から覚める時、どんなにすばらしい世の中が展かれてくるでしょう」と語った伊藤千代子は、いま、あたらしく「光の中」に置くべき女性ではないでしょうか。

生涯」制作を支える滋賀の会」（略称「映画『伊藤千代子』滋賀の会」）を立ち上げ、劇映画「わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯」の制作・上映運動への賛同をお願いしてきました。

幸いにして現在、一七〇人を超える方々に賛同いただいています。

なお劇映画「わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯」の賛同団体は現在、滋賀県労働組合総連

賛同団体、賛同者は今後とも広くお願いしてまいります。あわせて「協賛募金」も募っていきます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

二〇一二年十一月十五日

映画『わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯』制作を支える滋賀の会

10月30日現在	(目標 350人)	308人
会員署名	(目標 5,000筆)	459筆
団体署名	(目標 150筆)	5筆

滋賀県本部、滋賀県母親大会連絡会、滋賀県平和委員会、大津市平和委員会、治安維持法国賠同盟滋賀県本部、日本民主青年同盟滋賀県委員会、日本共産党滋賀県委員会の二団体です。

また映画の協賛募金も四〇万円を超えたことを報告させていただきます。

島田耕 本部会長

（治安維持法国賠同盟滋賀県本部、日本民主青年同盟滋賀県委員会の二団体です。

島田耕 本部会長

（治安維持法国賠同盟滋賀県本部、日本民主青年同盟滋賀県委員会の二団体です。

島田耕 本部会長

映画『わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯』制作を支える滋賀の会

さて党大津地区ビューローでは十一月一日当日に、レッドページされた京阪電車の同志に職安闘争に参加するよう指示し、東レバージの同志には検察官闘争に加わるよう指示した。と記憶しているが、『新大津市史』には東レバージ組も職安闘争に参加したとあるので、そういう指示をしたのかもしれない。この点、若干あいまいだ。党と在日朝鮮人解放救援会幹部の糾放を求める検察官闘争の指導部を決めたのは県ビューローである。

西村守さん（京阪のレッドページ犠牲者）が「鉄道線路（これは間

## 一九五〇年十一月「大津事件」の思い出

県本部副会長 西田 清

『不届』滋賀県版七月号・八月号・九月号に河かおるさんが「大津事件」について書いている。在日朝鮮人の闘争を「暴力共産主義革命の行動の予行演習」と称する権力の虚偽を告発されている。いつもながら、よく調べて論述されている。

さて一九五〇年十一月一日にきた「大津事件」は、一般的には大津検察官事件だけが取り上げられ、職安事件は軽視されている。しかし本来は、大津職業安定所における失業反対・職よこせ闘争と大津検察官への不当弾圧反対・逮捕者糾放運動の二つを「大津事件」と呼ぶのが正当である。『新大津市史』下巻は、「大津事件」をかなり詳しく記述し、事件の経過と事件の「十年裁判」の状況を伝えている。私もこの記述全体に不満はないが、『新大津市史』で能勢克男弁護士が述べている

結論から言うと、大津職安での「職よこせ」闘争と大津検察官への糾放要求デモを計画し、指導したのは、当時の県党ビューローである（ビューローは当時の非公然党機関。GHQは党中央委員を

私は當時、党大津地区ビューローの山田真二、小林九一郎などの同志、検察官闘争では東レバージ組の杉谷正、小林龍馬などの同志が逮捕された。

十一月一日の「大津事件」の当日、私は県ビューローの指示で、検察官に近いあるアソートにいた。アソートは『新大津市史』に出てくる西村守さん（京阪のレッドページ犠牲者）が「鉄道線路（これは間

違いで国道一号線）から平道に飛び降りた地点の近くにあった。私がアジェトで待機したのは、不当弾圧を予想して、情報をを集め、弾圧に抗議し、犠牲者の釈放を求めるビラをつくるためである。ここで「大津事件の翌日にまかれたビラ」（『新大津市史』）をつくった。ビラの内容は全然覚えていない。現物があれば見たいものだ。話しが先走った。話をもとに戻すと、職安闘争で逮捕者が出るとは予想していなかつた。私の知る限りでは、闘争における戦術は決められていなかつた。当日の戦術は、現場で山田真三同志が選択したものだらう。

検察官闘争は、弾圧犠牲者の旧朝連幹部が南朝鮮へ強制送還されることが危惧され（送還即処刑）、これを阻止するために、朴光海さん（旧朝連日本部書記長

で、日本共産党員）などの釈放を求めて、検察官へ要請行動を組織したのである。その主力部隊は在日朝鮮人になつた。

当時、日本共産党滋賀県委員長

代理で大津市議の岡田清さんも「東レレッドページ事件」で不当逮捕されていた。そこで労農救援会で「岡田釈放」を要求する検察官交渉をおこなうこととした。つまり朴光海、岡田清の両同志の釈放の要請行動を共同でおこなつたのである。

こんなわけで、私は能勢弁護士の評価を受け入れることができない。

なお一二・一弾圧事件の東レ閑係犠牲者の杉谷正君は、その後、失業対策事業の労働者として長い間働いた。小林龍馬君は大津市のアジェトに匿い、私が食事を運んだ。でも弾圧が心配されるので、ある支持者の女性から子息の学生服を借りて着せ、私が付き添つて膳所駅から関西ビューローへ送つた。その後、小林君は吳市で働いたよう、六全協後に大津へ帰ってきた。大津板紙に潜り込み、正社員になり、結婚もして、大津市の中央学区に住んだ。私は時折、小林君を訪ね、カンパをもらつた

（1頁より）

大阪は今年の春にコロナ感染の第4波に見舞われ、全国的に見て最悪の感染状況となりました。5月のピーク時には自宅療養者が1万5千人を超え、重症者が増え続け、確保病床では収容できず、医療崩壊に至りました。医療崩壊の犠牲となつたのは、病人、老人貧乏人などの「弱者」です。維新支持層である中堅サラリーマンは、リモートワークで感染リスクを

りしていたが、さて彼の党籍はどうなつていただろう。記憶が薄れ定かでない。

もう一人、京阪ページ組の西村守さんは、国道から飛び降りたとき、足をくじいて（右だったか左だったかは覚えがない）、生涯、びっこを引いていた。その西村さんも、失対事業で働いて暮らしをたてていたが、のちに京阪本線をページされた同志・畠山武三さんの紹介で同志社大学の生協に就職した。

11月3日付朝日新聞のオピニオン欄で弁護士の竹下善樹さんが、生活保護者や路上生活者の支援をしていて「受給者や貧しい人はなまくらだ」という先入観が広がっているが、国や政治がそういう風潮を作つたと述べています。「貧困は自業自得だ」という考えは維新支持者の考え方と共通するものです。同じオピニオン欄で歴史学者の松沢裕作さんは、「共感」という人間の営みに目を向けよと言います。貧困に苦しむ人を見た時立場が入れ替わりうると思うことから「ひとことではない」という思いが生まれ、社会全体でカバーしようという発想が出てくると述べています。政党が提示すべきは分断ではなく、共感と社会的連帯だと思います。

特に政治史を扱つたものには、ほとんど女性が登場しません。手元にある「日本近代史」（坂野潤治著。ちくま新書）は定評ある近代政治史の本ですが、「索引」で確認しても一人の女性の名前もありません。

それは政治の表舞台から女性が完全に排除されていました。そして当面の運動目標としては、女性の家庭・職場での地位、教育、政治などをあらゆる分野での男女の機会均等を目的としていました。そして当面の運動目標としては、女性の奪われた政治的権利を取り戻すことに照準を合わせました。すなわち女性の政治集会参加や、政治結社の組織・加入を禁止した治安警察法第5条を修

女性の社会主義団体赤蘭会の結成

新婦人協会が設立された翌年、1921年に女性による社会主義運動団体として赤蘭会（せきらんかい）

が幸徳秋水、菅野スガラの大逆事件で社会主義が冬の時代を迎えた。それ収束していたのです。

日本近代史には、女性がない？  
新婦人協会の運動

自由な政治活動をめざす  
政治集会に参加、演説する権利を取り戻す（治安警察法改正）

正し、女性が自由に政治的な活動をできることが目指したのです。

新婦人協会は、治安警察法第5条の改正にむけた議会活動を展開し、ついに1922年、修正案が貴族院を通過し、治安警察法第5条2項の改正が成立しました。これによって女性が政治集会に参加し、演説し、発起人になることも認められました。しかし、治安警察法第5条1項の改正はされず、女性が政治結社を組織し、また加入することは禁止されました。

赤蘭会の顧問的立場にあつた山川菊宋は、新婦人協会の議会活動を「思想の幼稚不徹底」などと批判していましたが、そもそも治安警察法第5条改正運動は、明治末に平民社に集つた延岡（堺）為子

が、幸徳秋水、菅野スガラの大逆事件で社会主義が冬の時代を迎えたものでした。彼女らは1905年に治安警察法第5条の改正を求める議会請願を出しています。それ

## 婦人参政権めざす たたかいの始まり

治安警察法第5条の改正は結社権を認めないという不十分なものでしたが、それがもたらした歴史的意義は大きなものがありました。

1922年には女性の政治談議や講演が認められたことによって女性たちの政治活動が堰を切ったように活発になります。1923年3月8日には、神田青年会館で日本最初の「国際婦人デー講演会」が開かれました。生まれて初めて演説するという人を含め女性ばかりの弁士をそろえ、3千人が集いました。

こうした運動の高まりの中で本格的な女性参政権運動が始まります。

1924年、市川房枝、久布白落実らによって婦人参政権獲得期成同盟会が立ち上ります。「宣言」では、女性の参政権を求める運動が男女は人間として同一である

り、ゆえに同等の権利を持つとする自然権の思想に立つことを明記しました。そして運動の目標に女性が国

の政治に参画するための参政権、地方政治に参画するための公民権、それに女性が政治結社に加入することを認める結社権を要求する二法案通称「婦選三法案」の制定をすえました。

した。

1925年3月、婦人参政権獲得期成同盟会は、第五〇議会に治安警察法第5条2項（結社権）の改正案とともに婦人参政権、公民権の建議案を上程します。二案は、衆議院本会議を通過ましたが、貴族院で審議未了廃案となりました。

こうした運動の「普選」に値しないことは明らかでした。

まず女性が選挙資格から除外されました。さらに選挙の失格者を定めた条項の中に「貧困により生活のため公私救助を受け、または扶助を受けるもの」という規定があり、貧困者層が締め出されたのです。さらには朝鮮、台湾など植民地住民はすべて除外されました。

さらに「普通選挙法」成立の一方で、政府は枢密院の意向を受け法案可決寸前に治安維持法を普選と抱き合せの形で成立させました。

「普通選挙法」を目指す組織と運動を禁止した治安維持法が成立したこと、婦人参政権運動にも大きな影響を与えることになりました。

徹底した男尊女卑の家制度を基盤とする絶対主義天皇制の下で男女平等の政治的権利を主張することは「國体の変革」に直結する危険性をはらんでいたからです。

事実、その後の婦選運動は、男女

の「普選」に値しないことは明らかに、男を助けて共に住みよい世の中をつくる」という目的に軌道修正を余儀なくされたのです。

そして1931年満州事変が勃発、軍国主義の台頭によって得は敗戦後1945年11月の治安警察法廃止、同12月の衆議院選挙法改正まで待つことになります。

結局、女性の政治的権利の獲

得は敗戦後1945年11月の治安警察法廃止、同12月の衆議院選挙法改正まで待つことになります。

政治的権利を求める声をあげるこ

とさえ困難に直面することにな

ります。



## 滋賀と朝鮮 68

### 大津市の朝鮮人教育闘争①

河かおる

四八年一月二十四日、文部省学校教

育局長通達「朝鮮人設立学校の取

扱いについて」により、朝鮮人は

教育基本法と学校教育法に従えと

いう名目のもと、事実上、朝鮮人

学校の閉鎖を命じられます。この

弾圧に抵抗する中で阪神教育闘争

（四・一四）が起きます。その

後、私立学校として認可申請を

し、自治体によつては補助金の獲

得をしていましたが、一九四九年

九月の朝連強制解散を根拠に、同

年十月、「朝鮮人学校に対する措

置について」が都道府県に通達さ

れ、朝連に関連していいた学校は全

て強制閉鎖されてしまします。

今回はまず、強制閉鎖前の大

津市における朝鮮人の教育につい

て見てみましょう。一九四八年

選挙が終わりましたが、私は何よりもこれで歴史否定論があります強まることがあります。野党がどれほど歴史否定論に明確に反対するのか／同調するのか、しつかりとウォッチして歴史否定論が「これ以上のさばるのを止めたいです。

さて、昨年の連載53、55「能登川の民族学級」で、大津市についても別途書きますと言つてそのままになつていたので、ようやく書きまします。前提となる流れは連載53と54に既に書きましたが、だいぶ時間が空いてしまつたので、ごく簡単に振り返ります。

日本の敗戦後、在日朝鮮人は子どもたちに朝鮮語や朝鮮の歴史を教えるために自主的に学校を作り始めます。それらを在日本朝鮮人聯盟（朝連）が体系化し、教科書を作り、教員を養成して行きますが、一九

四八年一月二四日、文部省学校教育局長通達「朝鮮人設立学校の取扱いについて」により、朝鮮人は教育基本法と学校教育法に従えとか／同調するのか、しつかりとウォッチして歴史否定論が「これ以上のさばるのを止めたいです。

さて、昨年の連載53、55「能登川の民族学級」で、大津市についても別途書きますと言つてそのままになつていたので、ようやく書きまします。前提となる流れは連載53と54に既に書きましたが、だいぶ時間が空いてしまつたので、ごく簡単に振り返ります。

日本の敗戦後、在日朝鮮人は子どもたちに朝鮮語や朝鮮の歴史を教えるために自主的に学校を作り始めます。それらを在日本朝鮮人聯盟（朝連）が体系化し、教科書を作り、教員を養成して行きますが、一九

学校	1948.2		1949.5	
	教員数	生徒数	教員数	生徒数
膳所	2	76	3	145
大津	1	63	2	83
石山	1	58	1	47
滋賀	1	42		35
錦織			1	24
別保	2	20	1	25
藤尾	1	22	1	25
合計	8	281	9	359

二月、一九四九年五月時点の資料によると、当時の大津市内にあつた朝連系の学校は表のとおりです。

戦前に朝鮮人が多数従事した大規模な工事などをきっかけに集住地区が形成されていった地域毎に学校が作られて、相当多くの朝鮮人の子どもたちが通い、児童数も増やしていましたことがわかります。表からは「滋賀」が「錦織」に移転したことが伺えますが、そのことがわかる手記を紹介します。一九五一年三月に在日朝鮮人教育者同盟が創刊した『新芽』（「新芽」の意）に掲載された滋賀県の朝鮮人児童による「共同作文特設学級」（朴慶植編『在日朝鮮人関係資料集成 戰後編』第十巻所収）です。原文は時々日本語が混ざる朝鮮語です。この作文を書いた児童は當時、大津市立志賀小学校の五年六生でした。表における滋賀初等学校（滋賀里）と推定される朝鮮人学校に通つっていた頃のことについて、次のように述べています。

出典：在日本朝鮮人聯盟中央總組織統計表（朴慶植編『在日朝鮮人関係資料集成 戰後編』）第2巻、不出版、2000年、所蔵。李殷直『在日民族教育』にて、次のように述べています。

日本敗戦後、在日朝鮮人は子どもたちに朝鮮語や朝鮮の歴史を教えるために自主的に学校を作り始めます。それらを在日本朝鮮人聯盟（朝連）が体系化し、教科書を作り、教員を養成して行きますが、一九

解放後、私たちは朝鮮に帰るため、ウリコンブ「朝鮮の勉強」をしようとしても、学校が無く、またお金がなくて、学校を建てることができず、何人かの同胞たちが力を合わせ、トンム「同志」の意で、この場合は友だちのことを「たちとともに家」とにお金を集め、そしてその時は今よりも鉄も高くはありませんでしたが、リアカーで私たちは鉄を拾つて集めることを手伝いました。アボヂ「父」たちが集まつて話を聞いて、今日、大津に行つて材木を買つてくれと、電車に乗つて行きました。材木を買ってきて、学校を建てる原っぱに行きました。行ってみると、マダン「広場」も広くて、青年達がたくさん集まつていました。私たちはトンムたちと手を取り合つてウリハッキヨ「私たちの学校」ができると喜びました。2、3日すると、小さなバラックができました。その晩、アボヂ、オモニ「母」たちが集まつて会合をしましたが、私たちも一緒に行きました。先生が決まりました。

家に行くとオモニが「明日から学校に行くのに本もなくてどうしよう」と言うので、私は、家にある紙を紐で一枚一枚繕つてノートをつくりました。次の日、学校に行くと、私たちよりももつと大きいオンニ「お姉さん」たちも腰を曲げて座っていました。しばらくすると、アボヂ、オモニ達が私たちが勉強するのを見に来られて、静かに見ていました。だが、その顔は皆笑っていました。

トンム達は全部で40名になり、初めてウリコンブをすることは、本当に面白かったです。そして、遠足にも行きました。歌も習いました。

ところが、こうして楽しい学校を、米軍が農園をつくると言つて、「だちのき「立ち退き」」をしなければならないと言いました。私たちも悲しかつたです。こうして、初めてのウリハッキヨは終わりました。

解放後、私たちには朝鮮に帰るため、ウリコンブ「朝鮮の勉強」をしようとしても、学校が無く、またお金がなくて、学校を建てる

て、最後に先生が「それではトンムたち、明日から学校で勉強しましょう」と言うのを聞いて、とても嬉しくてどうしてよいかわかりませんでした。

ここに出て来る米軍の農園というの、おそらく滋賀海軍航空隊跡を接收してつくられた大津水耕農園（現在の唐崎駅一帯）のことだと思われます。立ち退きを迫られた後、バラック（「二番目の学校」）で勉強していましたが、錦織に新しい学校を建てることになつて、そこに通いはじめたそうです。

錦織学校は、「二番目の学校」よりも良く、学校も机も良かったです。勉強もよくできました。そうして、いたのですが、先生がまた替わりました。こんどの先生は聯盟「朝連」からいました。そうして、いつにか先生がまた替わりました。こんなに連載の「伊藤千代子最後の手紙公開のあとさき」と「再録 滋賀の平和と進歩」、「ひろば」を掲載出来ませんでした。「不屈」は会員みんなで作る機関紙です。みんなの投稿をお待ちしています。

になりました。今も学校に行く途中でその米軍農園を見ると、その学校のことを思い出します。

ここに「膳所小学校」と述べているのは、大津市立膳所小学校ではなく、一九四九年十一月に強制閉鎖されたことになる朝鮮人学校のことです。次回もこの作文の続きを紹介しながら強制閉鎖の顛末とその後について書いて行きます。



今月の「不屈」

は、紙面の都合により、連載の「伊藤千代子最後の手紙公開のあとさき」と「再録 滋賀の平和と進歩」、「ひろば」を掲載出来ませんでした。「不屈」は会員みんなで作る機関紙です。みなさんの投稿をお待ちしています。